

会 議 録

■会 議 名	倉敷市社会福祉審議会 高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定専門分科会（第2回）
■日 時	令和5年8月30日（水） 14:00～15:50
■場 所	倉敷市役所 7階 701会議室
■出 席 者	秋山（正）委員、秋山（み）委員、安藤委員、石元委員、宇治郷委員、衛藤委員、生水委員、河相委員、木曾委員、後藤委員、兒山委員、佐賀委員、西岡委員、福元委員、松本委員、三谷委員、矢野委員、藪田委員、山口委員 辻参与（健康福祉部長）、早川参事（健康長寿課長）、林副参事（介護保険課長）、宇野副参事（地域包括ケア推進室長）、玉井副参事（指導監査課長）、清水副参事（福祉援護課長）、金谷副参事（住宅課長）、吉田健康長寿課長代理、小野地域包括ケア推進室主幹、田邊介護保険課長補佐、 コンサル
■傍 聴 者	0名
■報道機関	0名
■進 行	1 開会 2 議事 （1）第1回分科会での質問事項への回答について 事務局から質問内容の振り返り及び質問への回答。 質疑なし。 （2）計画の基本理念と目標について 資料1に基づき、事務局から説明。 質疑なし。 （3）地域包括ケアシステムの実現に向けて ・介護予防の取組と地域づくりの推進について 資料2に基づき、事務局から説明。（スライド1～33） （スライド34～53） ・地域共生社会に向けた取組について 資料3に基づき、事務局から説明。 （4）介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査の概要 ・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（単純集計）の報告 ・在宅介護実態調査（単純集計）の報告 資料4に基づき、事務局から説明。 質疑なし。 3 その他質疑応答 4 閉会

■議事（協議内容）

- (1) 第1回分科会での質問事項への回答について
- (2) 計画の基本理念と目標について（資料1）
- (3) 地域包括ケアシステムの実現に向けて
 - ・介護予防の取組と地域づくりの推進について（資料2）
 - ・地域共生社会に向けた取組について（資料3）
- (4) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査の概要（資料4）
 - ・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（単純集計）の報告（参考資料1）
 - ・在宅介護実態調査（単純集計）の報告（参考資料2）

- (1) 第1回分科会での質問事項への回答について

発言者	発言要旨
	質疑なし。

- (2) 計画の基本理念と目標について（資料1）

発言者	発言要旨
	質疑なし。

- (3) 地域包括ケアシステムの実現に向けて
 - ・介護予防の取組と地域づくりの推進について（資料2）

発言者	発言要旨
委員	<p>サロンと老人クラブの境目がよく分からない。老人会は市から各クラブに以前は年間47,000円もらっていたのが、市との交渉で今年から50,400円に上げてはもらった。これは100人居ても30人でも、金額は同じ。一方サロンは、少人数でも年間30,000円もらっている。年齢もやっていることもほぼ同じだけど、サロンの方がいい。サロンと老人クラブは何がどのように違うのか。</p> <p>老人クラブは古くから長く続いている組織で、ふれあいサロンは何かやりたいという人が集い、少ない所では4～5人で趣味やお喋り会など、様々な活動をしておられる。実際には市からお金をもらってないサロンも沢山ある。</p> <p>サロンは高齢者の方々が集まって自分たちで企画し、楽しく活動して下さることが目的で、それが出かける場となり、近所の方もお誘いして仲間作りをし、そのことが健康づくりや介護予防に繋がることを目的としている。老人クラブのように組織としてではなく、最低3人以上で個別に活動しているもの。</p> <p>老人クラブは昔から国の制度としてあり、活動内容には社会貢献が含まれている。サロンはやりたいことを何人かが集まってするのだが、老人クラブは地域貢献活動などをしていただいております、組織は最少単位で30人となっている。</p> <p>概ね了承した。お誘いしても老人クラブには入らない、という方が多く、サロンとの違いを訊かれた場合にはっきり答えないといけないので、お伺いした。</p>
事務局	
事務局	
委員	

事務局 委員	<p>最低条件は 30 人だが、27 人などになってしまった組織がなくなってしまうので、倉敷市は最低が 25 人でよくなったと認識しているが。</p> <p>最小単位が 25 人ではなく、30 人以上で活動していた所が、辞められてその人数を割ってしまった場合に、25 人までは容認するというご案内をしている。</p> <p>生活支援コーディネーターが高齢者支援センターと連携しながら、サロン活動のサポートもさせていただいている。市の補助金を活用し活動されているサロンは 300 くらいあるかと思うが、実際には補助金をもらわずに活動している小さなものも 800 以上あることが分かってきた。</p> <p>少人数で体操をやったり手芸活動をしたり、ただお喋り会で気軽に集まったりとか。例えば老人クラブでグラウンドゴルフに参加しながら、別の曜日にはサロン活動もされて、上手に行き来している方もおられる。そういった場に出かけることで自分の役割をもらって更に元気になられたり、90 歳を超える高齢の方なども身近に通いの場があるからということで、参加されている方も沢山おられるという現状も分かってきた。</p> <p>昨年度、生活支援コーディネーターで通いの場のガイドブックをまとめて、地域の中で情報発信に取り組んでいる。コロナ禍では、補助金等を活用して場を継続されたサロンも沢山あったし、コロナ禍だからこそ、場の必要性を感じて新たに立ち上がったサロンもある。コロナが落ち着いてきた今、これまでできなかった世代間交流や食事会などサロン活動をサポートしていきたい。</p>
委員	<p>スライド 28 で、「通いの場に参加しようと思わない人は約 2 割程度存在している」と大きく見出しにある。グラフを見るとそれどころか、「参加したことがない」人が約半数ほどおられるが、「参加しようと思わない」人の割合に焦点を当てたこのスライドには何か意図があるのだろうか。</p>
事務局	<p>通いの場以外でも、高齢者の方が様々な活動で社会参加してくださっていただければ、それで良いと思っている。サロン活動の支援にこれまで力を入れてきたが、それだけをしていけば良い訳でもないのではという問題意識の下、通いの場だけで高齢者の社会参加支援を全てカバーできるものではないという点で、先生方からのご意見も頂戴できればと、このスライドを出させていただいた。通いの場以外にも色々な活動やお仕事をされている方も増えていて、大変良いことと思うが、2 割の方が「通いの場に行きたくない」と、明確に意思表示されたことに問題意識を感じた次第。</p>
委員	<p>多様性も認めないといけない。通いの場に行けばそれで良いというのではなく、色々なお考えで行きたくない方もおられるので、行かないからといって悪者ではないという認識も必要だと思う。</p>
委員	<p>大変素晴らしい内容で、これをどうやって実現していくかだと思う。先ほどのスライド 28 では、参加しようと思わない 2 割の方についても大変難しい問題だとは思いますが、参加したことがない方にどうやって参加してもらおうかが主な部分かと。そのために様々な社会資源が必要で、2 点、スライド 31、32 の愛育委員、栄養委員による場作りとあるが、この委員さん方は充足されているのだろうか。最近、婦人会すら構成できない地区があると聞いているので、こういうネットワークでも非常に希薄になっているような印象を受けているが、知識がないの</p>

委員	<p>で教えていただきたい。</p> <p>栄養委員は食の切り口で健康づくりの場を作っている。栄養委員は1年間勉強し修了証をいただいて活動するシステムだが、委員の高齢化や学区によっては組織の消滅もあり、市全体として取り組んでいるところ。消滅した所は他の学区が面倒をみる等の形で活動していただければ良いと思うが、負担が大きいという声も聞く。</p>
委員	<p>昨年辺りから保健所の健康づくり課と、どんな問題があってなぜやりたくないのか、アンケートを取り考えているところ。頑張っている学区は若い人も集めて若い世代からの健康づくり、年寄りも一緒になって3世代で料理教室をしたり、年寄りが若い人に知識を教えたり、料理だけではなく、情報交換する場にもなっていると思う。</p>
委員	<p>やはり担い手が厳しい状況にあるということかと。学区を越えると分からない、自分の地域はよく知っているけど隣の地区は全然分からなくて活動しにくいと聞くので、担い手をどうやって確保していくかが課題。</p>
委員 委員	<p>会長のなり手がいない事が一番の問題だが、その負担をどうやって軽減していくのか。食育栄養まつりを各地区でやっているが、その取組を市全体でしようかと。この土日、アリオで食育フェアという子どものための健康フェアがあり、結構おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に来ていただいた。野菜の花のクイズがあり、おばあちゃんがいれば花の名前を教えられるが、若い世代は見たこともなくて分からないからクイズもやらない、と言われるので、ヒント出すからやってみてと言うとやってくれる。やはり私達の年代からも教えていかないといけないのかなと、ここ数年で良い方向に持っていきたいと思っているところ。よく分かった。有難うございました。</p>
分科会長 委員	<p>話が戻るが、高齢者が参加して活躍できる場の提供。参加してもらわないと始まらない。私の配偶者は今72歳だが、ほとんど参加しない。そうかと言って何もしていない訳ではなく、普通に生活はしている。交流会いわゆるサロンに1～2回参加したが、もう誘わないでほしいと言われた。この表だけでは、引きこもりの方や、介護保険にかかっていなくて独居の方などが見えない。そうした人たちも参加しようとは思わないのかなど、もう少し深掘りが必要かと。夫はサロンに参加しなくなって1～2年経つが、言葉は少なく、滑舌も悪いし、フレイル状態に向かっていて、こういう場所は絶対必要だと思う。ほとんど人と話すことがないが、夫自身はそれで構わない様子。ただ、明らかにフレイルとかそういう方向に進んでいる。そういう方達の把握、独居、引きこもりなど、かなり高齢者の方が多いと思うので、そういう人の探りというか、拾ってみてもらえたらいいと思う。</p> <p>ただ今のご発言は要望ということでいただく。</p> <p>先ほどの「通いの場に参加しようと思わない」人について、前回第8期計画策定時も同じテーマの取り上げがあったかと思う。その結果を経時比較してみた場合、前回調査時から色々市として取組をされてきて、実際変化は生じているものなのか、その把握はされているのか。参加は増えたのか、若しくは減ってしまっている状況なのかを、お伺いしたい。</p>
事務局	<p>コロナの関係で、社会活動に参加する方は若干減っている。無回答だった方が</p>

委員	<p>「参加しない」に移動していると推測している。前回と今回の変化を見ると、「参加しようと思わない」という方が前回よりも4ポイントほど増えている状況。ただ、コロナの影響等々もあって、地域活動への参加自体が減っており、一概に意識として通いの場に参加したくない人が増えたという訳でもないのでは、という捉え方をしている。</p>
分科会長	<p>つい先日あるサロンで話をしたがそのメンバーの方が全員女性で、先ほどの委員もおっしゃったのと全く同じ様に、配偶者が参加しないと言っていた。恐らく色々な要因があり、声かけだけによる参加もなかなか難しいのではないかと、アプローチを少し変えていかななくては、とも感じている。</p>
事務局	<p>今スライド28に話題が集中しているが、「参加しようと思わない」や「参加したことがない」の理由が分かれば良かったかなと思う。次回調査では、なぜ、参加したいと思わないのか、なぜ参加したことがないのか、理由も併せて調査したら良いかと思う。</p>
分科会長	<p>次回の課題という形にさせていただく。通いの場に参加しないからいけないのではなく、何らかの形で社会参加していただけるように選択肢を増やす視点で、市民の方や高齢者支援センター、生活支援コーディネーターとも色々と検討していきたい。</p>
委員	<p>既に参加する場があるから、特にサロンには参加しようと思わない人もいるかもしれない。</p>
委員	<p>以前他の市町村で高齢者向けの楽しみマップを提示したら外出の機会が増えたと聞いた。何か楽しみがないと、「元気になるために」と半ば強制的に通いの場に行くのは難しいのかもしれない。楽しいからワクワクするから出かけようという仕掛けを作っていけば、地域全体の雰囲気が変わっていくのではないかと。市だけでなく民間の協力を得ながら進めていけたら良いのではないかと。</p>
事務局	<p>スライド48「自立支援・重度化予防の取り組み」について。以前他の市の地域ケア個別会議に作業療法士として参加したが、専門職のメンバーが他所から派遣されて来るので、その地域の社会資源等の状況を把握できていない、分からないといった問題があった。そんな時に、生活支援コーディネーターの方にその場に居ていただくと、地域の社会資源等もよくご存じで、良いのではないかと、皆さん忙しくてなかなか難しいかもしれないが、生活支援コーディネーターとの連携があれば、より実情に添った話ができるのではと思った。</p> <p>地域ケア個別会議は、自立支援に向けて予防プランを検討していく会議。高齢者支援センターが事例に対して予防プランを立てる場合もあるし、ケアマネジャーが行うこともある。地域のインフォーマルな資源をしっかりと使っていただき介護予防に取り組むことは大切だと思う。高齢者支援センターの職員だけでなくケアマネジャーが、事例を通じて地域のインフォーマルな資源を知ることができる場にもなっている。年間150回開催をしており、生活支援コーディネーターが会議に参加する方法もあるが、人数も限られていてなかなか難しい。高齢者支援センターと生活支援コーディネーターがしっかりと連携して、地域のインフォーマルな社会資源についても情報共有しながら進めていけたらと思っている。</p>

<p>委員</p> <p>分科会長</p>	<p>行きたくても、地域のどこに何があるか分からない人が多いのではないかと思います。私達は会議に出るから分かるが、福田地区の通いの場の紙をもらったら、行く所がものすごくあった。個人の名前でやっている所もあるし、手芸、料理、体操、舞踊、フラダンス、英会話とか、そういう沢山の中で、何か自分で行きたいなと思うところがあればいい。今、地区の皆さんには、全員に回覧を回してくださいという形でお願いしている。</p> <p>あと、足がないお一人の方など、買い物難民の皆さんも困っていて、スーパーマーケット行きのバスなんか、例えばどこに何人くらい集まれば来てもらえるのかなども調べてもらったりしている。とにかくびっくりするくらい色々な、通いきれないくらいの通いの場所がある。先日の小地域ケア会議で、そういったことも共有させてもらった。</p> <p>通いの場について、他の委員の皆さんへの情報提供ということで。</p>
-----------------------	---

(3) 地域包括ケアシステムの実現に向けて

・地域共生社会に向けた取組について (資料3)

発言者	発言要旨
委員	<p>スライド4の所、刃物研ぎが得意な男性の方が、場に出ることが苦手な方ではあったが、地域のサロンから預かった刃物を研いで、それをお返しすることで喜んでもらい、やりがいを感じてまた他のサロンとも関わりを持つことができた。またスライド20の105歳の方、施設に入られているが得意な手芸を活かしてポーチ作りに取り組み、それを地域のお譲り会なんかに出品することで皆さんに喜ばれ、今も続けられている。施設の方もその方の得意なことをサポートして、道具などを準備したりしてくれている。その人らしくというキーワードもあったが、その人なりの活躍の仕方を生活支援コーディネーターとしても意識しながら、これからも取り組んでいく必要があると思っている。</p> <p>この事例以外でも、男性の方がなかなか場に出て来られないという話もあったが、木工が得意な男性がサロン会場の踏み台を作ってくれて、行事の参加はしないけれども、そういったことで関わりを持つ事例もあつたりするので、色々な関わり方があることを意識しながら取り組みたい。</p>
委員	<p>スライド30、五助のうち近助についての事例紹介。近所の96歳のおじいさんはお元気だが一人暮らしで心配なので、娘さんを含め近所の皆さんで見守っている。以前は朝夕の車庫のシャッターの開閉が、元気な合図だったが、今は足が弱ってできないので、今は外灯を夜は早くても付けるように、朝は消すようにということで、テレビなんかも、外から明かりが分かるので、それを見て大丈夫というように、一人暮らしで何かあってからでは遅いので、娘さんとも共有している。</p> <p>高齢者で一人住まいが多くて、お元気なようでも、いつの間にといい感じで、寝たきりになったとか、入院してしまったとかがあるので、とりあえずは家の前のおじいちゃんを、見張るような感じにいる。娘さんは何かあっても仕方ないと言われるけど、そうですかと放っておく訳にもいかないの、毎日外灯が付いたり消えたりするのを見て、ポストも見たりしている。</p>

委員	<p>回覧は回さないようにして、ゴミ当番とか、町内の役は回さないようにしているが、窓から周りが見えるから川掃除なんかには出てきたがったりするので、ケガをしてもいけないし、皆で連れて帰ったり。でも100歳まででも生きてほしいなと願って、見守りをしている。</p> <p>できたらいいなと思う2点について。ボランティアしたら一定の金銭が出るという仕組みがあるが、自分がするとしたら、難しい話だとは思いますが、自分がしてきたことが将来自分に返ってくるような仕組みが何かできないかなと思う。金銭ではなく貯金のような形で持っておき、将来自分が困ったときに使えるような仕組み。もう1点は、困ったことを支援する仕組みとして、子育ての分野ではファミリーサポートセンター事業という、支援ができる人ができるときに困っている人を助ける仕組みがあるが、今は子育ての分野にしか無いので、年代を越えてお年寄りが困っていたら、支援をできる人がいたら助けられるような仕組みが、できないかなと思っている。</p>
事務局	<p>とても新鮮なアイデアを有難うございます。参考にさせていただきたい。シルバー人材では福祉・家事援助レンジャー隊というちょっとした困りごとをお手伝いするような仕組みがある。しっかり情報共有して、もう少し普及していけたらと思う。</p>

(4) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査の概要(資料4)

- ・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(単純集計)の報告(参考資料1)
- ・在宅介護実態調査(単純集計)の報告(参考資料2)

発言者	発言要旨
	質疑なし。

■その他質疑応答

発言者	発言要旨
委員	<p>色々な介護予防教室や家族介護教室、その他の教室があるが、このような教室で大事な目的が2つあると思う。まずは、各教室そのものの内容を充実させて、少しでも多くの方に教室を知っていただくということが1つ。もう1つは、教室は1時間とか時間が決まっていると思うが、せっかくご近所の方や知らない方なども含めて皆さんが集まっているのに、時間が来るとそのまま交流もなく帰ってしまわれることもある。</p> <p>我々は教室前後のフリートークを大事にしている、初めて同士の方が連絡先を交換したりとか、出会ってその後も繋がっていくことがとても大事なことだと思う。そういうことは承知で計画はされていると思うが、教室そのものを充実することも当然だが、その前後の時間を有効に使うと思いがけない繋がりができて、再来を促すことになるのではないかな。</p>
委員	<p>資料2のスライド9で、「⑤良質な介護サービスが安定的に提供されるようにするため、介護人材の確保と資質の向上を推進します。」とあるが、例えば研</p>

事務局	<p>修会なんかをやるにしても人手を出すこと自体が難しい状況で、倉敷市は広いこともあり、市内でも所属と会場が離れた地区の現地開催となると限界を感じている。</p> <p>あと、背景として仕事も大変だし給料もそんなに上がらないという、介護職のイメージがかなり悪いことがあるのではと思っている。働く世代が減っていき他の仕事もある中でどの仕事を選ぶかとなった時に、介護職を選んでもらえるようなイメージアップに結び付けるような取組みが必要かと思う。市からそのような発信をしていただくことはできないか。</p> <p>⑤については、次回分科会で取り上げさせていただこうと考えている。高齢者支援センター業務の魅力発信は大事なので大学の学生さん向けに、高齢者支援センターの職員が大学に出向いて講義の中で、活動内容ややりがいなど介護職の魅力発信をさせていただいている。活動をしっかりとアピールしてイメージアップに繋げ、就職の選択肢に入れていただけたら嬉しいと考えている。</p>
分科会長	<p>③（認知症施策）、④（在宅医療介護連携）、⑤（介護人材確保）の審議についてはまた次回に。</p>
事務局	<p>次回第3回は10月25日の予定。</p>

会議録の内容に相違ないことを確認し、ここに署名します。

倉敷市社会福祉審議会 高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定専門分科会

分科会長

後藤 祐之